

2017

9

September

No. 294

三島み報広

福島県
大沼郡
三島町



三島町は、福島県の西部を流れる只見川沿いの小さな町です。優良な「会津桐」の産地として知られるほか、小正月の行事「サイノカミ」や、野山の材料で作る「編み組細工」などの伝統が受け継がれ、「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

Mishima Town Public Relations

想定外を想定内に

山火事を想定した中継・送水訓練（6ページに関連記事）

主な内容

平成29年度三島町成人式	2	町史編さん室だより	9
町民記者通信	3～5	トピックス・お知らせ	10
まちの話題	6～7	宮下病院からのお知らせ	11
健康で元気な毎日！	8	情報配信	12～13
図書のご案内	8	町長日記	14



大石田地区 仮装盆踊り 文・写真 中兵一郎さん（大石田）

今年もお盆の8月14日に仮装盆踊りが開催されました。昭和初期の農夫さんの仮装からアフロヘア、電飾による仮装などがあり楽しく輪になっていました。また、夜店は綿あめ、焼き鳥、ビールなどのお酒もあり、午後6時半から9時過ぎまで地区の人たち、帰省中の子ども、孫までお盆の一時を楽しく過ごしました。

楽しい夏の思い出に（夕やけ市と盆踊り）

文・写真 佐々木邦雄さん（桧原）

8月14日、恒例の「夕やけ市と豊年盆踊り」が、地区分校跡地において奉賛会主催で行われました。当日は好天に恵まれ、午後5時より夕やけ市が開始され、地区の皆さんや帰省客など、多くの買い物客でにぎわいました。今年も模擬店は、焼き鳥、焼きそば、焼きイカ、かき氷、生ビール、くじの6点をメインに売り出され、大盛況につきすべて完売となりました。また、盆踊りは午後7時より開始され、今年も20代の若者たちが、半月前より先輩の指導のもと太鼓、笛、鐘、三島甚句の練習を行い、本番で良い結果を発揮して頂きました。踊りも大きな輪ができ、地区の皆さんと帰省客と一緒に盛り上げ、楽しいにぎやかなひと時を過ごされました。

また、帰省客の皆さんから「今年も楽しい夏の思い出が出来た」「来年も必ず来るから」「楽しみにしています」など多くの言葉が聞かれ、ふるさとの伝統行事を絶やしてはいけないという、奉賛会の皆様の強い思いが感じられました。



滝谷お盆櫓踊り

文・写真 目黒民一さん（滝谷）

滝谷地区の「お盆櫓踊り」は8月13日に地区集会所前広場で行われました。お盆の13日に行われるようになってから5回目となり、地区や帰省の人たちにも夏の風物詩としてすっかり定着した感じがします。今年も若者が中心となった実行委員会のメンバーは、7月の初めからお囃子と甚句唄や踊りの練習に励んできました。

宵闇が迫り、会場の櫓や提灯にも明りが入り、いよいよ櫓踊りのスタートです。待ちかねたように浴衣姿や法被に鉢巻をした子ども達が踊りだしました。毎年恒例となった地元婦人会による団体参加の仮装踊りは踊りの輪を盛り上げました。なかでも甚句の唄い手と篠笛を奏でる「地元五人娘」のコラボレーションはより一層櫓を引き立て、大きな歓声が上がりました。また、会場では消防班や有志の方による焼き鳥や生ビール他の出店も並び大賑わいでした。

櫓と踊りの輪の一体感、歓声と熱気のその中で、地元の人、帰省の人達も一夜限りの盆踊りを満喫していました。



平成29年度

三島町成人式

三島町成人式は8月15日に交流センター山びこで行われ、矢澤源成町長から新成人9人に成人証書と記念品が手渡されました。新成人を代表して諏江霞純さん（桧原）が誓いの言葉を述べました。式終了後、新成人の皆さんは恩師の先生方と一緒に三島小・中学校を訪問し、その後の祝賀パーティでは久しぶりの再会を喜び、近況を報告しあいました。

町では成人された皆さんを祝福するとともに、これからの活躍を期待しています。

新成人名簿

氏 名	地 区
板 橋 雄	滝 原
渡 辺 翔 太	大石田
佐 久 間 祥 吾	滝 原
五十嵐 輝	宮 下
廣 瀬 和 奏	宮 下
二 瓶 和 香	名 入
諏 江 霞 純	桧 原
板 橋 恵	浅 岐
中 丸 あかね	宮 下

生年月日順・敬称略



式に臨む新成人の皆さん



誓いの言葉を述べる諏江さん



小学校訪問の様子

「間方スカイラインの草刈り」行われる

文・写真 菅家壽一さん（間方）

7月29・30日の両日、間方から昭和に通じている、間方スカイライン（林道入間方不動沢線）の草刈りが行われました。この作業は、林道の管理者である町からの委託事業により行われたもので、県道との別れ口から大辺峠までの約7kmを、地区の11名が参加して行われました。小雨の中、参加していた方は慣れた様子で刈払い機を操作し、林道を覆っていた雑草が、みるみる刈り取られていきました。

この林道は、山の作業や材木の搬出、山菜採り等の林業活動に活用されることはもちろん、志津倉山登山、かしや猫ロードトレッキング、田舎暮らし体験ツアーの森林浴、春夏秋冬の森林散歩に活用されるとともに、生活道路としての要素も多く含んだ林道です。



善男善女の寺参り

文・写真 角田伊一さん（川井）



8月15日、川井松音寺において先祖の盆供養「施食会」が行われ、川井、大登、宮下地区より大勢の檀信徒が参詣に訪れました。齋藤ご住職の読経にあわせ、参列の善男善女がご本尊の聖観音菩薩像に焼香した後、位牌堂に祀られたそれぞれの先祖の御霊に盆供養の敬虔な祈りを捧げました。お盆には自家の先祖を供養するため、ごちそうをこしらえて家族とともにいただく習わしですが、餓鬼道におちいった貧者や不幸者にも供養を施すことで徳を積み、自分にも救いがあるとされており、曹洞宗のお寺では盂蘭盆に施食会を行っております。この日松音寺ではあわせて護持会の総会も盛大に行われました。

送り盆

文・写真 菅家壽一さん（間方）

8月15日の夜、お団子を背負って、ご先祖様がお帰りになります。14日の朝にお迎えして、たった一晩、一緒に過ごただけでお帰ります。村上の方から、各家から大通りまで送り火が灯され、数力所に集まり、大きな送り火となり、その灯りを頼りに、ご先祖さま方が一緒にお帰りになります。大通りのそれぞれの送り火には、ご先祖様を送って来た人たちが大勢集まり、ご先祖様の思い出話をしたり、子どもがいれば花火が始まったり、賑やかな送り盆の時間が流れていきます。



夏の夜、古典落語を堪能 ～三遊亭竜楽独演会～

文・写真 小島純さん（宮下）

8月20日、毎年恒例で行われている「西隆寺夕涼み寄席・三遊亭竜楽独演会」は現在、西隆寺の庫裡の改修工事が行われているため、今年は西方ふるさとセンターに会場を移して開催されました。地元をはじめ、会津坂下、会津若松市などからも熱心な落語ファンが駆けつけました。竜楽師匠は、古典落語の「荒大名の茶の湯」と「唐茄子屋政談」の二席を披露し、集まった約60人の観客は竜楽師匠の確かな話術に、暑さを忘れて古典落語の世界に引きこまれました。

～滝谷のお宝巡り～ 風穴体験と史跡見学

モニターツアー 文・写真 目黒民一さん（滝谷）

地域の自然資源や史跡等を巡り、地域に眠る「お宝」を今後の地域活性化につなげる試みとしてモニターツアーが7月17日に行われ、町内外から約20人の参加がありました。午前9時にJR滝谷駅に集合し、一行は下館山の北側にある滝谷風穴を見学し、年間通して5～7度の冷風が吹き出る自然の冷蔵庫でもある「クールスポット」を体感しました。その後、上ノ山に安置されている三十三観音等の石仏群や戦国時代の見晴らし台として使用されのろしが焚かれたと言われる小館山のろし台に登り地区を一望できるその景観に歓声も上がりました。また、地区集会所では風穴で保存したそばやみそ等の試食会が行われ、NPO法人まちづくりみしま代表理事の佐久間宗一さん（宮下）の手打ちそばや、地元婦人会の皆さんが調理したみそ汁、つけものなどが並び、参加した人たちは希少価値のある味に舌つづみを打ちながら、楽しいひとときを過ごしました。



地区委員による国道刈り払い作業終了する

文・写真 本名与四郎さん（西方）

7月26日から30日までの5日間にわたり、地区委員による国道400号線を中心とした刈り払い作業が行われました。

26日から28日までの平日は早朝5時より1時間30分程度の作業を行い、週末の2日間は午前中の刈り払い作業となりました。天気予報では雨模様でしたが、幸いにも雨にあたらずケガ・事故なく終了することができ、今後、お盆にかけて帰省客が多く往来する国道400号線はすっかり見違えるようになりました。



珍客マムシも出現する危険な刈り払い作業

元気な声がこだまするかたくりプール

文・写真 本名与四郎さん（西方）

7月26日から夏休み中に限り開放されるかたくりプールが始まりました。西方在住の三島小学校の子どもたちは、連日、プールでの練習に取り組む姿が多く見られました。

27日は、平日にもかかわらず、小学生だけでなく、「森の校舎かたくり」に宿泊されている親子連れの方もプールに入り、総勢24名と大賑わいでした。夏休み明けに予定されている、三島小学校水泳記録会に向けて、父親が自分の息子に熱のこもった指導をする光景も見られ、微笑ましく思われました。

例年、お盆にかけて故郷への帰省客がかたくりプールを利用することも予想され、西方地区に賑わいと活気を与えてくれそうです。



地域資源を活用したまちづくりに向けて

町と国立研究開発法人国立環境研究所が連携・協力に関する基本協定を締結



署名を終えた原澤英夫理事（左）と矢澤源成町長



署名式の様子

町と国立研究開発法人国立環境研究所との連携・協力に関する基本協定の締結合意書署名式は8月23日、町民センター視聴覚室で行われ、矢澤源成町長と原澤英夫国立環境研究所理事が協定締結の合意書に署名しました。この協定は、第四次振興計画において再生可能エネルギーの活用を掲げる三島町と、平成28年度より三島町で地域環境創生プログラムの調査研究を行ってきた国立環境研究所福島支部がお互いの情報、資源、研究成果等の活用や人材育成、普及啓発に関する連携・協力していくことを約束し、取組の一層の推進・発展を図るものです。

今後は、町と同研究所で ①木質バイオマス等の地域資源を利活用する地域振興計画の調査・研究、②ICTシステムを活用した地域見える化・コミュニティ支援システムに関する調査・研究をテーマに、具体的な協力内容を検討し、事業を進めていく予定です。

奥

会津の暮らしに関心よせる

福島県立医科大学生が研修で来町

8月23日、福島県立医科大学生約20名が地域医療体験研修の一環として三島町を訪れ、地域おこし協力隊3名（志賀薫さん、清水夏穂さん、常盤達彦さん）が参加し、交流センター山びこで交流会を行いました。医師不足に悩む奥会津地域を就職の選択肢にするという目的で10年以上行っている研修ですが、地域おこし協力隊と交流するのは初めての試みだそうです。

学生のみなさんは協力隊から三島町に来たきっかけや三島での生活についての発表を聞いた後、山ブドウのストラップづくりに挑戦しました。その後昼食会では、医大生のみなさんは奥会津の暮らしについて協力隊のみなさんと活発な意見交換を行っていました。



元

気であるためにできること

宮下病院等後援会総会ならびに健康講演会

8月7日、町民センターにおいて宮下病院等後援会による健康講演会「元気でいるためにできること」が行われ、約30人が参加しました。宮下病院の山元勝悟先生を講師に迎え、腰痛の原因の解説や腰に負担のかからない姿勢の取り方、筋力と柔軟性を鍛える運動などが紹介され、来場者は熱心に聴いていました。



宮

下地区が初優勝

地区対抗ソフトボール大会



優勝した宮下地区

お盆恒例の地区対抗ソフトボール大会は8月14日に行われました。今年は宮下、大登、滝谷、西方の4地区が参加し、トーナメント方式で試合が行われました。各地区とも町民や帰省客の皆さんが親睦を深め合いながら試合を楽しみ、宮下地区と西方地区が決勝戦に進み、宮下地区が初優勝を飾りました。

最近は参加する地区が少なくなっていますが、一方で若い選手や女性の参加が増え、はつらつとしたプレーも見られ、熱戦が繰り広げられました。

【結果】

- ▶優勝：宮下地区
- ▶第3位：大登地区
- ▶準優勝：西方地区
- ▶第4位：滝谷地区

90

mの高低差、600mを中継

山火事を想定した送水・中継訓練

8月20日、町消防団による山火事を想定した送水・中継訓練が滝谷地区で行われました。滝谷地区での訓練は初めてで、滝谷川から水を汲みあげ、火災想定現場まで全7台のポンプで高低差約90m、距離約600mを中継し放水しました。

訓練は中継途中に水槽を用意した場合と、滝谷川から直接送水した場合の2回に分けて実施され、いずれも送水に成功し、送水量などを比較したところ、直接送水の方が安定することなどがわかりました。

団員の皆さんは、講師を務めていただいた、会津坂下消防署三島出張所や会津消防用品(株)の方々の助言を受けながら、ポンプの操作方法や無線による連絡方法を再確認しました。





男性は 60 歳を過ぎると足が細くなる！？

男性の方で 60 歳を過ぎる頃から急激に太ももが細くなり、つまづきやすくなったり、片足立ちで靴下をはこうとしてよろめいたなどという方はいませんか？男性にも更年期障害というものがあり、それは「テストステロン」というホルモンの分泌量が減少することで起こります。

テストステロンはタンパク質合成ホルモンでもあるので更年期になり分泌量が減少すると筋肉、特に骨格筋の収縮タンパク質の産生が衰え、太ももが細くなったり、筋力が低下するとされています。また、骨盤内の筋肉が衰え、便秘になったり、背筋を伸ばして腰を支えられず腰痛が出てきたりと様々な影響を引き起こします。

男性更年期の筋力低下を抑える方法として、ストレッチ運動をお勧めします。ストレッチをすることで筋肉の繊維を束ねている筋膜がのばされ、伸ばせば伸ばすほど太い繊維を作ることができると言われています。また、ストレッチと筋力に関する調査で、定期的なストレッチは、筋力をアップする効果があることが報告されています。

筋力の低下や腰痛を防ぐために、ストレッチ運動と、適度なタンパク質摂取（三島テレビで紹介しています）をお勧めします。体操のやり方が分からない場合は保健師に相談してください。

※ストレッチは呼吸を止めずに、痛みの出ない程度に延ばすなど正しい方法で行いましょう！

※体力に余裕がある場合は、筋力運動も足せばなお効果的です。

< 1 回 30 分以上の運動を週 2 回以上、1 年間行っている人の率 >

三島町	福島県	同規模人口町村	全国
25.8	37.6	31.8	41.2

H 27 特定健診問診データ



図書のご案内

町民センターゆめぼけっと

下記の雑誌を毎月購読しています。
ひよこクラブ・たまごクラブ・
山と溪谷・オレンジページ・壮快・
Number

○利用時間
⑨～⑫ 午前 9 時～午後 9 時
⑩・祝日 午前 9 時～午後 5 時

○お休み
年末年始
☎ 公民館 ☎ (4 8) 5 5 9 9

●今月のおすすめ

ツバキ文具店 著者：小川 糸

主人公の雨宮鳩子は故郷の鎌倉に戻り、亡き祖母の文具店と代書屋業を引き継ぐ。さまざまな人の思いをすくいとり手紙にして相手に届けることで、鳩子は彼らの思いや人生に関わり、また仕事の師匠であった祖母の思いにも寄り添っていく。

2017 年本屋大賞第 4 位の作品。

●新着本の紹介

題 名	著 者
騎士団長殺し 第 1 部・第 2 部	村 上 春 樹
それでもこの世は悪くなかった	佐 藤 愛 子
マジ文章書けないんだけど	前 田 安 正
10 年後、君に仕事はあるのか？	藤 原 和 博



町史編さん室だより

第 20 回

☎ (52) 2 1 6 5
もし、ご家庭に古い文書などがございましたら、交流センター山びこまでご一報ください。

タネがえし（間方地区）

山からのさまざまな恵みや田畑からの収穫、そういった自然（植物や動物）との密接なかわりのなかで生まれた優れた「言葉」を、聞き書きのなかで探していました。そうしたなか、大谷川の源流がある間方地区で出会ったのが「タネゲエシ」という表現です。

人間が種をまいたのではなく、こぼれた種から花や野菜が育つことがあります。これを奥会津では「フツツエ（ふつつえ）」といいます。また、現在は種子を購入することも多くなくなりましたが、かつてはほとんどの作物は秋に種子を採って越冬させ、翌春にまくことが日常的に行われていました。こういった種子を「ジダネ（地種）」ということもあります。

七月下旬、東京国際フォーラムという展示会場で『オーガニック・ライフスタイル・エキスポ』が開催さ

れました。昨秋にはじまり、今夏は第二回目で、有機農業に関する生産・加工・販売者が集いました。このなかで話題の中心になったのが「自家採取のタネを守ること」そして「その土地で生まれ育った伝統野菜を復権すること」でした。この動きは「タネ継ぎ」ともいい、タネを守る運動にもなっています。

会津伝統野菜「余蒔胡瓜」をつくる会津若松市の有機農家の長谷川純一さんは、間方でキュウリの古い品種に出会い、それを「間方きゅうり」として育てています。こうした古い品種が残される背景には、タネを無くさない、その品種を無くさない個人の努力があります。

間方では、自家採取した種子をまくことをタネゲエシと呼びます。タネを畑に返す、という含意があるのでしょうか？とてもよい表現だと思

ます。自分で採取したタネを畑にまく。こうした行為をタネゲエシ（「タネを返す」という言葉で表現した先人には、使わせてもらったものはお返しするという自然への謙虚さがうかがえます。

また、奥会津でカノと呼ばれる焼畑は、特別に肥料を施さず、山で草を刈って乾燥させて焼き、その灰を肥料としてタネをまきます。二年目、三年目には播種する作物を替えながら、最後は荒らして自然に返し、十数年後に必要であればまた焼畑を行っていました。

「タネゲエシ」という言葉が象徴的ですが、畑でも山でも自然とのつきあい方には、人間の所有（ただ収穫する、切り拓いたまま畑とする）とするだけでなく、自然に返し、また（必要となれば）利用するという循環的な考え方があったように思えます。

文 三島町史編さん専門委員 菅家 博昭

「フレイル」という言葉を知っていますか？「フレイル」とは、健康な状態と要介護状態の中間の状態の事で、一言でいえば「虚弱」の状態の事です。

寝たきりの原因としては脳卒中などの脳血管障害が最も多いですが、近年、フレイルが原因となり、寝たきりになってしまう方も多いということがわかってきました。

フレイルになると、病気にかかりやすくなったり、病気が悪化しやすくなったり、転んで骨折しやすくなったりする

福島県立宮下病院
専門看護師 伊藤郁子



フレイルについて

◆外来看護師のつぶやき

なったりするため、入院を繰り返すこととなり、その結果寝たきりになってしまいます。フレイルによる寝たきりを防ぐために、3つの事を心掛けましょう。

- ①運動（筋肉の強化）と食事（バランスよくタンパク質等を摂取）に注意すること
- ②持病を上手くコントロールすること
- ③インフルエンザや肺炎球菌ワクチン等の予防接種で感染症を予防すること

高齢者が増えている現代社会において、フレイルに早く気づき、正しい治療や予防をすることが大切です。しっかり食べて体を動かして、いつまでも元気で楽しく生活していきたいですね。

宮下病院では毎週木曜日に愛ばんしょ外来（相談窓口）を開設しておりますので、お気軽にご相談ください。

愛ばんしょ外来のお知らせ



宮下病院では、毎週木曜日「在宅療養生活支援外来（愛ばんしょ外来）」を行っています。

- ①病気や障がいを抱えて家で生活する方や、家族からの介護や生活についての相談窓口
- ②地域に住む方々の健康維持・増進、介護・疾病予防のための支援
- ③地域に住む方々が気軽に立ち寄れる交流場所の提供などを目的に、看護師、薬剤師、栄養士、リハビリスタッフが皆様の在宅生活のためのお手伝いをさせていただきます。

※相談コーナーでは、例えば……

「健康のことを考えたいけど、何をすればいいかわからない」
「介護のコツを知りたい」
「話し相手が欲しい」
など、健康、介護、医療に関することについてご相談をお受けします。

※相談コーナー 午前9～12時、午後1時～午後4時
健康教室 午前11時～午前11時半
どちらも宮下病院外来待合室で行います。
※無料ですので、お気軽にお越しください！

☎ 宮下病院 ☎ (52) 2321

＜住民交流事業＞

9月21日⑥ 手先の運動を行いながら
午後2時～午後3時 「山ブドウストラップ作り体験」
宮下病院 会議室

三島町の山ブドウのつるを使って簡単なストラップを作りながら、参加者同士の交流を深めましょう！講師の伝統工芸士が分かりやすく作り方をお教えします。
また、今後の健康維持に役立つ運動方法をリハビリスタッフがお教えしますので、ぜひご参加ください！

参加申込み締切日 9月15日⑤（定員25名）

月 日	内 容
9月7日⑥	・相談コーナー ・健康教室「季節の変わり目は体調の変わり目」（講師：看護師）
9月14日⑥	・相談コーナー ・健康教室「住宅におけるお薬について①」（講師：看護師）
9月21日⑥	・相談コーナー ・健康教室「ノドを鍛えよう」（講師：看護師）
9月28日⑥	・相談コーナー ・健康教室「住宅におけるお薬について」（講師：看護師）
10月5日⑥	・相談コーナー ・健康教室「冬に流行する感染症と予防方法」（講師：看護師）

話題の映画とワークショップを楽しむ

地域おこし協力隊による
映画上映イベント



8月19日、地域おこし協力隊による美坂高原イベント「高原シネマ」は天候不良により会場を美坂高原から桐の里倶楽部に変更して開催され、併せて開催されたワークショップや映画を楽しもうと町内外から約60名が来場しました。開場から映画上映までの間、絵がみづくりなど4種類のワークショップが開催され、来場者の皆さんはレクチャーを受けながら思い思いの作品づくりを楽しみました。また、町内飲食店も出店し、各店のオリジナルメニューが登場し盛況でした。

会津医療センターからのお知らせ

あいづ健康ふれあいフェスタ2017

住民の方々に医療とのふれあいを通して、一人ひとりの健康への意識を高めてもらうことを目的とし、ふれあいフェスタを開催します。

・日 時 平成29年10月7日⑤ 午前10時～午後3時
・場 所 会津医療センター内および駐車場
(会津若松市河東町谷沢字前田21-2)

・主な内容（仮） ○中高生対象医療体験コーナー（内視鏡体験、腹腔鏡下手術体験など）
○健康セミナー
○健診・リハビリイベント
○ドクターヘリ展示（救急業務が発生した場合中止の可能性あり）

・問合せ先 あいづ健康ふれあいフェスタ実行委員会
☎ 0242 (75) 2242（会津医療センター経営企画室）



消防署よりお知らせ

9月9日は「救急の日」

「救急の日」は、救急医療および救急業務について、皆さまに理解と認識を深めていただき、かつ、救急医療関係者の意識高揚を図るために定められました。

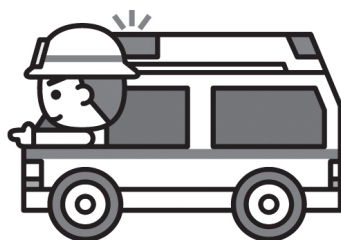
◇町民の皆さまへお願いです◇

具合が悪くなったり、けがをしている方がいたら速やかに 119 番通報しましょう。救急車が現場に到着するまでの間、その場に居合わせた人が、いかに早く応急手当を行うかということが、病人やけが人の命を救う重要なポイントです。

◇こんな症状が出たら救急車を！◇

1. 意識がない・またはもうろうとしている
2. ろれつが回らなくなった
3. 出血が止まらない
4. 突然の強い頭痛や胸痛、腹痛
5. ハチ、蛇等に刺された（噛まれた）

上記のような症状以外でも判断に迷ったら我慢せずに「119 番」
通報をして救急車を呼びましょう。



火事・救急・救助は 119 番まで
会津坂下消防署三島出張所
電 話 52 - 3032
FAX 52 - 3033

法務局の筆界特定制度をご存知ですか

土地の境界をめぐるトラブルは、裁判で解決するしかないと思いませんか。法務局が行っている「筆界特定制度」を活用すれば、裁判をしなくても、境界トラブルを早期に解決することができます。筆界特定制度は、その土地が登記された時の境界（筆界）について、現地における位置を法務局が調査し、明らかにする制度です。特定された筆界は法務局に備え付けられ、筆界の位置を示す証拠として活用することができ、境界をめぐるトラブルの防止や解決に役立ちます。詳細は法務省のホームページ（<http://www.moj.go.jp/MINJI/minji104.html>）をご覧ください。下記までお問い合わせください。

【お問合せ先】

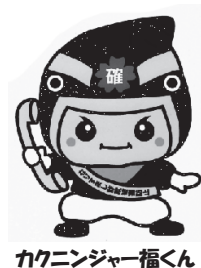
〒960-8021 福島市霞町1番46号（福島合同庁舎）
福島地方法務局不動産登記部門
☎ 024（534）2048



会津坂下警察署よりお知らせ

電子マネー型架空請求詐欺に注意！

電子マネー型の架空請求が多発しています。当署管内でも7月中に、コンビニエンスストアの迅速、的確な対応により、架空請求詐欺被害を未然に防止したケースがありました。



なりすまし詐欺被害者の方にアンケート調査を実施したところ、被害者のほとんどが「自分はだまされることはない」と思っていたことがわかったでござる。自分もだまされるかもしれないという危機意識を持って、警察や役場などからの注意喚起に耳をかたむけて、被害にあわないように心がけるでござるよ！

▶セブンイレブン会津坂下インター店

同店店員は、7月13日に来店した70歳の女性が、BitCash カード6万円分購入しようとしたので不審に思い、理由を尋ねてなりすまし詐欺と看破し被害を未然に防止しました。

▶ファミリーマート会津柳津店

同店店長は、7月10日に来店した60歳の女性が、アマゾンギフト券約37万円分を購入しようとしたことから不審に思い、理由を尋ねるなどしてなりすまし詐欺と看破し被害を未然に防止しました。

インターネット被害防止

「あ・と・が・こ・わ・い」運動実施中

スマートフォンを利用して……

「あ」 会わないで！（知らない人と）
「と」 撮らないで！（自分の裸を）
「が」 画像を送らないで！
「こ」 個人情報を載せないで！
「わ」 悪口を書き込まないで！
「い」 いじめないで！（ネットを使って）



☎ 福島県会津坂下警察署生活安全係 ☎ 0242（83）3451

街頭犯罪発生件数（平成29年7月31日）

区 分	管 内	三島町
空き巣ねらい	3	
忍び込み		
出店荒らし		
自動車盗		
自転車盗	6	
ひったくり	1	
街頭犯罪合計	15	0
全刑法犯	79	2

※全刑法犯には街頭犯罪以外（器物損壊、暴行、傷害、万引き、詐欺など）の犯罪発生件数が含まれます。
※右記発生件数は、平成29年1月1日からの累計数となっています。

社会福祉協議会より

ひまわりサロン

9月20日（水） 午前10時～
町民センター

◆心配ごと相談◆

9月21日（木） 福寿草
午前9時30分から午前11時30分まで

☎ 社会福祉協議会 ☎（52）3344

町からお知らせ

9月分納税のご案内

【納期限 10月2日】

▼国民健康保険税（第3期）

▼介護保険料（普通徴収・第3期）

▼後期高齢者保険料

（普通徴収・第2期）

忘れずに納付ください。

☎ 町民課町民係 ☎（48）5555

町の人口と世帯（8月1日現在）

人口	1,675	増減	-5	出生	1
男	817		-3	死亡	0
女	858		-2	転入	1
世帯	779		-3	転出	7

④住民基本台帳による数値です。増減数は前月との比較、出生・死亡・転入・転出は前月1カ月間に届出のあった人数です。

はじめまして赤ちゃん



今月はおりました。

来永くお幸せに



今月はおりました。

お悔み申し上げます



中村 秀 臣（82才・西方）

五十嵐 アイ子（88才・名人）

※掲載を希望する方もされない方も、各種手続き時に『広報みしま掲載同意書』に記載事項を記入していただきます。ご協力をお願いいたします。

☎ 総務課総務係 ☎（48）5511



作品03-CB

小堀 貞 展

T. Kabori

2017年 9月2日 (土) ▷ 10月1日 (日)

会 場 交流センター山びこ
開館時間 午前9時～午後5時
最終入館 午後4時30分
休館日 9月4日(月)・11日(月)
19日(火)・25日(月)

観覧料 一 般 300円
65歳以上 150円
高校生以下 無 料
三島町民 無 料
主 催 三島町教育委員会 / 交流センター山びこ

町長日記

～祭りの後の静寂さ～

No. 26

お盆も終わり、三島にも「日常」が戻ってきました。約10日間の「祭り」に酔いしれた痺れが身体に残り、様々な音が子どもの声に聞こえたり、夜中の動物の鳴き声がやけに新鮮に聞こえます。

お盆で帰省される人も、この15年で年々少なくなり、三島から離れ戦後の復興を支えた年代の方が高齢になり、その子どもたちやお孫さんがお墓参りに来る姿も見受けられるようになりました。

祭りという喜びは何時かは覚めます。しかし、人間が「祭り」を人生の節目で経験するように、町の歴史も「祭り」や「イベント」を繰り返して、過去から学びながら次の世代に「相統」するものだと思っています。

人も町も「自立」することが、人材育成や町づくりの基本として叫ばれ続けていますが、「自立」の基本は、多くの関係性を創ることであり、町の歴史を顧みる時、強く感じることが出来ます。例えば荒屋敷遺跡の出土品から感じ取れる地域交流の姿、平安時代に会津を代表する5つの寺のうち、町の寺が2つ入り、磐梯町の恵日寺との交流の歴史。そしてふるさと運動や生活工芸運動、地区ブライド運動等の施策を通しての交流の歴史です。この方向性に自信を持ち、交流を通し、相互に学び次の世代に「相統」していくことが、今を生きる我々の責任であります。

2100年には、日本の人口が現在の半分の約6千万人から8千万人になると言われています。人口減少に悲観論もありますが、現在のドイツは8千2百万人、イギリスは6千5百万人、フランスやイタリアは6千万人程度の人口と言われています。日本の80年後の姿であります。このことから、日本の今後は「幸福の質」や「成熟社会」への質の転換であると考えます。地方創生を契機として「幸」をキーワードに、町全体の方向性を考えることが、時代を先導する事だと考えます。

三島町長 矢澤 源成